

平成26年 9 月 広域交流対策特別委員会（付託）

平成26年10月14日（火）

[委員会の概要]

中山委員長

ただいまから、広域交流対策特別委員会を開会いたします。（10時32分）

直ちに議事に入ります。

本日の議題は当委員会に係る付議事件の調査についてであります。付議事件につきましては、お手元に御配付の議事次第のとおりであります。

まず、理事者において説明又は報告すべき事項があれば、これを受けたいと思います。

【報告事項】

- 企業誘致の推進について（資料①）
- 「徳島ビジネスフォーラム i n 東京」の開催について（資料②）

酒池商工労働部長

商工労働部より二点御報告させていただきます。まず、第一点目は、企業誘致の推進についてであります。お手元の資料1を御覧ください。サテライトオフィス及び関連企業については、県、地元市町村、NPO法人等が連携して誘致に取り組んでおります。このたび、北海道に本社を置き、ネットショップの運営等を行う風の株式会社が、三好市において、廃校となった小学校を活用して新たな事業所を開設したことに伴い、ふるさとクリエイティブ・SOHO事業者誘致事業補助金の奨励指定を行いました。今後とも、市町村等と連携した企業誘致プロモーションにより積極的な誘致活動を展開し、より一層のICT企業の集積による地域振興・活性化につなげてまいりたいと考えております。

次に、2点目につきましては、徳島ビジネスフォーラム i n 東京の開催についてであります。資料2を御覧ください。このフォーラムにつきましては、今年4月からの本四高速への全国共通料金制度の導入や今年度中に予定されている本四高速と徳島自動車道の直結などにより、飛躍的に向上する本県の立地環境や本県が有する二つの光、LEDと光ブロードバンド環境といった本県の強みを情報発信し、本県への更なる企業誘致を推進するため、11月18日、東京において開催するものであります。

開催に当たりましては、誘致企業からのプレゼンテーションをはじめ、本県企業の優れた製品を展示するブースを設けるなど、首都圏を中心とした県外企業に、本県を大いに売り込んでまいります。また、デジタルアートで数多くの話題性のある作品を手掛けておりますチームラボから、本県出身で世界的にも活躍されている猪子寿之代表を講師に迎え、クリエイティブとものづくりのマッチングなどについて御講演いただき、成長が期待される映像やデザインなどのクリエイティブ関連企業をはじめ、LEDや次世代放送システムであります4K8K関連企業の集積に努めてまいります。

さらに、翌日から幕張メッセで開催される、世界的なメディア展示会である国際放送機器展 I n t e r B E E において、4K先進県として先駆的な実証実験に取り組んできた本県の立地環境の優位性と徳島の魅力を、知事のトップセールスにより国内外に強力にア

ピールし、次世代放送システムの映像コンテンツ、内容に関する企業等の誘致・集積を推進してまいります。報告につきましては、以上でございます。よろしくお願いたします。

中山委員長

以上で報告は終わりました。

それでは、質疑をどうぞ。

岡委員

企業誘致の推進で、今回、資料1で、風の株式会社さんが、三好市にサテライトオフィスを開設してくれたということなんですけども、ネットショップの受注と発送とカスタマーサポートということなんですけども、発送ということは、廃校になった小学校を使って、注文を受けたものをそこに一回集積して、そこから発送も全部していくということなんですけども。ちょっとお聞かせいただきたいと思います。

小林企業支援課副課長

岡委員から御質問いただきましたけども、ネットショップの受注、発注につきましては、旧佐野小学校を拠点といたしまして、こちらでインターネットにより受注を受けて、そこから配送をすることを考えております。以上でございます。

岡委員

注文を受けた物をそこへ集めてきて、そこから発送するということですね。分かりました。大体、企業誘致というと、大きい工場を呼んできてというような、広い面積が要ってというようなことが今まであったと思うんですけども、新しい形なのか、全国でいろんな所でこういう取組をしよるんか分かりませんが、廃校を利用して、荷物の集積もできるような広い場所を確保できて、インターネットで注文を受けてというような、こういう企業誘致の形というのは、特にこういう田舎と言われるような徳島では、もっともっと進めていくべき。新しくはないかもしれませんが、一つのモデルケースになるのではないかと思います。たしかちょっと中身が、新聞等々の報道では一回出てましたかね。その中でちらっと見ただけで、よく分からなかったんで、お聞きさせていただきました。是非ともこういう企業誘致をどんどん進めていっていただいて、利用できるものはどんどん利用していただけるようにしていただきたいと思います。

あと、前回6月の委員会の中でもお聞きをさせていただいたんですが、その後、特に私のほうにも何の報告もなかったですし、6月議会ではまともなお答えが頂けませんでしたので、再度お聞きしますけども、マチ★アソビの時に作った知事さんと市長さんのプレートの使い道はどうなったのか。設置する所を検討しているということだったので、検討状況と、前回答えていただけなかった、あのパネルが徳島のにぎわいづくりにおいて、どのような役割を果たすとお考えなのか、お答えいただきたいと思います。

新居にぎわいづくり課長

岡委員から、レリーフについての御質問をいただいたところでございます。

レリーフにつきましては、マチ★アソビのイベント期間以外にも、年間を通じてアニメを活用した街のにぎわいを創出するために、平成26年3月からレリーフの製作、設置について取りかかっているところでございます。これにつきましては、現在、レリーフを16枚作成させていただいたところでございまして、4枚が設置済みで、そして現在製作中の物が7枚ございまして、手元に合計12枚あるところでございます。

設置箇所につきましては、ユーフォーテーブルの前に、現在4枚ありまして、多少の余地がございますので、その部分と、あとそれ以外の場所につきましては、まだ現在、検討中というところでございます。

また、先ほど、委員のほうから、知事の手形の価値というお話がございましたけれども、私といたしましては、基本的には、設置の優先順位としましては、アニメの声優さんでありますとか、制作者といったアニメのファンの方に喜んだいただけるものから、順次設置していきたいと考えております。以上でございます。

岡委員

答えになっていないんですけれども、何で作ったのか、それがどうやって徳島のにぎわいづくりに資するのかということを聞いてるんですが。別に設置の順番がどうこうということは聞いていませんし、声優さんであったりとか、監督さんであったりとかいうものは、前回は申し上げたように、それは私自身はよく理解できるところはありますけれども、百歩譲って、それに興味がある方、それを見に来る方もいらっしゃるだろうとは思いますが。前回は言ったとおり、何でこれを作って、何の徳島のにぎわいづくりに値するのかということをお聞きしておるわけですし、別にほかのレリーフをどこかで設置するというのであれば、前回おっしゃっていたような、公共の車歩道に設置するなんていうことになれば、大きな問題になるかもしれませんが、個人の土地に付けるんだとしたら、別に私がどうこう言うような話ではないですし、それがにぎわいづくりになると思ったら、やったらいいと思います。飯泉知事さんの手形がマチ★アソビのにぎわいづくりに関して、また徳島のにぎわいづくり課として、どのようなにぎわい創出効果があるのかということをお聞きしておりますので、私の言っていることが分からなかったら、分からんと言っていていただいて結構ですし、その件について、しっかりとお答えをもらわないと質問を終われませんので、しっかりと答えてください。

新居にぎわいづくり課長

前回は、経緯について御説明させていただいたと思いますけれども、レリーフの製作の第1回になります、平成25年3月17日でございますが、第1回のぷち★アソビのイベントとして、2日目に開催させていただきましたものでございまして、その時は中村繪里子さん、近藤光総合プロデューサー、月刊ニュータイプアワード編集長の水野さん、それから来賓といたしまして、徳島県飯泉嘉門知事と、徳島市の原秀樹市長を来賓としてお迎えさせていただき、その場でお披露目を兼ねての式をさせていただいたところでございます。以上でございます。

岡委員

答えてないでしょ。来賓として呼んだのがどうしたんですか。何で来賓として呼んだ人の手形取って、それをわざわざ車歩道に設置しようとしたのか、全く理由が理解できません。あなたに聞いても、多分答えは返ってこんと思うので、答弁いただかんで結構ですので、上司は新田さんですよ。新田さんはどのようにお考えですか。どのようににぎわいづくりに資するのか、お答えいただきたいと思います。

新田観光国際局長

マチ★アソビの関係の手形についての御質問でございます。マチ★アソビは御承知のように、徳島を遊び尽くすことを目的といたしましたイベントでございまして、要するに、東新町をはじめといたしまして、眉山山頂、それから新町川、ボードウォーク、阿波おどり会館、ポップ街、徳島駅周辺、それらにつきまして、様々なイベント提示を行い、中心市街地の活性化につなげていく目的で行っている事業でございます。

おかげさまで、この5月のマチ★アソビには7万人の方が御参加いただきまして、残念ながら、この10月につきましては、クライマックスランでございまして、10月11日、12日、13日と予定しておりましたが、1日台風で中止になりまして、2日間で5万人ということでございますけれども、しかし、地域経済の活性化ということでは一定の成果というものは出ておると考えております。

そこで、私どもといたしましては、これを年間を通じました観光誘客にどういうふうにつなげていくかということを考えておりまして、その中で、ただいま課長が申し上げましたように、レリーフを設置いたしまして、マチ★アソビ国際アニメ映画祭が回を重ねるごとに手形レリーフも増えていくことで、ロサンゼルスの子ネズシアターのように、人気の観光名所になることを期待して、行っている事業でございます。私どもといたしましては、できるだけこういうふうな名所化、アニメの通年の経済効果を得るために、このレリーフについてやっていこうと考えております。

お尋ねの飯泉知事と原市長の手形がセットになりました一枚物の、要するにレリーフにつきましては、ただいま課長が申し上げましたように、3月17日の第1回ぷち★アソビ、このイベントの一環として実施をさせていただきました。結果的に、現在のところ、レリーフにつきましては、16枚作成されておりまして、4枚設置しておりますが、残り12枚残っておりまして、ただいま申し上げました優先順位からいたしますと、課長が申し上げましたように、声優でございますとか、そういう方々を優先的に配置してまいりたいと考えております。過日、土曜日にも、マチ★アソビのほう、知事にもおいでいただきまして、その中でも非常に集客効果はあったのではないかと、熱狂的に迎えていただいたという事実もございますので、効果というのは当然あると理解いたしております。以上でございます。

岡委員

知事の手形を置いたら、徳島のにぎわいづくりについて、集客効果があるということですね。別にレリーフを設置するなということをお話しているわけではないというのは、恐らく、あなた方二人以外の方には御理解を頂いているだろうと思います。誰もレリーフを設置するとは言ってません。ただ、飯泉嘉門さんを熱狂的に迎えられたって、それはそうでしょうね。アニメのイベントに来賓が来たら、熱狂的に迎えてくれると思いますよ。こ

れは多分、議員さんが行ったって、熱狂的に迎えてくれるん違いますか。飯泉知事さんやから、アニメの方々が熱狂的に迎えてくれたんですか。何か大きな実績を残されたんでしょうか、アニメを創ったとか。そんな話は一回も聞いたことないですけど、御多忙な方ですから、アニメを創るような時間もないでしょうしね。声優としても出てないだろうし、大人気になったという話も聞いておりません。知事さんの手形、レリーフを設置することによって、どんな効果があると思っておるんですか。何で一回目に作ったのがこれだったら、最初から設置せんでしょ。優先順位なんて。後から作ったものでしょ、後の枚数は。最初に作った時に設置すりゃいいのと違うんですか。何の効果が出てくるんでしょう。

私の事務所がすぐ近くにありますので、いつもそこへ寄って、状況を見ていますけども、手形レリーフを見に、人がようけ集まったということは一回も見たことないですけどね。マチ★アソビの期間中は別かもしれませんよ。それ以外の時には一度も見たことないですよ。どんな効果があると思うんですか。効果がありますでは分らんので、具体的に納得できるように説明してください。

新田観光国際局長

まだ、4枚しか設置しておりませんので、効果が余り出ていないということにつきましては、私どももあれでございしますが、今後、このレリーフ事業が進みますと、声優さんの皆さんも含め、たくさん設置することによりまして、できれば、境港の水木しげるロードのような活性化ができれば、更にいいかと考えています。

優先順位の話から申しますと、委員御指摘のとおり、声優のほうが著名でございしますので、声優のほうから設置をしたと。繰り返しになりますが、この飯泉知事と原徳島市長の手形を作りましたのは、平成25年3月17日の、要するにぷち★アソビのイベントとして実施をしたものでございします。繰り返しになりますが、私ども、これは将来的には設置をしたいというふうに考えておりますが、今、申し上げましたように、効果的に言いますと、おっしゃるとおり声優さんのほうが大きいですから、そちらのほうから優先的に実施していきたいというふうに考えております。

岡委員

とりあえず40分が済んだら、何とかなるだろうと思っとん違いますか、あなた。答弁は一緒やし、聞いたことには答えてないし、優先順位があるって、知事さんと市長さんの手形を入れたら、徳島の活性化に寄与する部分があるというんでしょ。どういうことですかと言うんですけど、何で寄与するんですか。アニメの声優さんはええですよ、別に。したらええん違いますか。公共の場所に入れるというのは問題があると思いますよと、さっきから申し上げています。はっきり言って、まともな答えになってないですね。あなたでもそんな答えしかできんのだったら、あなたの上司は酒池部長ですよ。どのようにお考えですか。これが本当に徳島のにぎわいづくりに役に立つと思っておるんでしょうか。お答えください。

酒池商工労働部長

ただいま新田局長のほうからお答えをさせていただきましたけれども、繰り返しになりますが、ぷち★アソビのイベントの一環ということでレリーフが作成されたということで、こういったイベントの集大成、全体において、これまでも44万人がマチ★アソビに会場していただいた。そういう集客力、こういったものに十分寄与しているのではないかと考えております。

岡委員

飯泉知事さんの手形を置いたら、人が集まって来るということですね。答えてください。

酒池商工労働部長

全体として16枚の手形が作成されています。

それを含めて、優先順位もありますけども、そういった物を順次、設置することによって、全体的に集客に対する効果があるというふうに考えております。

岡委員

全体のことや聞きよれへんのですって、何回も言よるでしょ。どこ見よん。全体のこと、聞きよれへんて言うのに。誰が全体の効果を聞きましたか。イベントあったけん、設置する所も決まってないのに、作ったんですか。言われたら、取りやめるんでは。それだけ自信があるんだったら、付けたらどうですか。それで人が集められるというんだったら、何でせんの。何で後のやつを先に設置していくんですか。それだけ自信があるんやったら、したらええん違うの。答えてない、答弁できてないですよ。16枚のレリーフのことや、聞いていませんから。飯泉知事さんと徳島の原市長さんの手形が何の活性化の役に立つんかと、どう思っておるのかと。寄与するやいうんでなしに、理由を付けてちゃんと教えてください。そうでなかったら、納得はできません。

新田観光国際局長

このお二人のレリーフが寄与するののかということについての御質問で、どう思うのかということですが、これにつきましては、このぷち★アソビ、平成25年3月17日の第1回の事業としまして、お二人の手形がそろった貴重な手形でございますので、その効果はあると考えております。

岡委員

あんまり何回も言わさんといってくださいね。何ですか、効果があるって。何、にやにやしよるん。何がおもしろいんですか。何の効果があるんですかと聞きよるのに、何が効果があるんですか。貴重な手形なんですか。よう分からん。私は、作る必要性が全く分からないですけどね。私が質問してから、あれ何えと、いろんな人からも声を聞きます。何であんなもん、税金使って作るんやと言われますよ。あんたの趣味で作るんだったらいいけどね、別に言いませんよ。あなたが手形を取ってきて、自分の家の前にでも埋め込むというんだったら、別に何も言いませんけど、あれが役に立つと思っておるんだったら、はっきり申し上げて、にぎわいづくり課だったりとか、そんな部署におけるような能力はない

と思います。誰がどう考えたって、こんなもん見に来る人、おらんとするしね。よっぽどのファンの人で、コアなファンのおるんだったら別ですけど。それか、マチ★アソビ、ぷち★アソビのイベントの一環として作った。これ、税金で作っておるんですよ、分かっていますか。あんたの趣味で作っとるんちゃうやろな。誰が見に来るんですか、そんなもん。設置場所は考えています、考えていますと言っていますけど、あんなもん設置したら、多分、非難も出てくるだろうしね、当然。私も公の場所で言いますし、ほかの議員さんにしたって、言わんだろうけど、そんなもん設置してどないするのと思っておる人は多いと思うんですけどね。これが徳島県の活性化の役に立つと思っておる人がおるんだったら、しっかりと話を聞いてみたいと思います。

理由は出てけえへん、しかるべき時に設置場所は考えると。あんなもん、本気で設置するつもりですか。作ったけん、設置せなあかんのですか。税金で作っとるもんね。何だかんだ理由付けて、付けなあかんのだろうね。どう思いますか。ほかの部署の人やって、こんだけ財政が厳しいと言われる中で、あきれとると思いますよ。金額的にはね、県の予算からしたら、大した金額ではないかもしれませんが。けどね、こんな無駄遣いが山積みになって、今の財政になっとんちゃうんですか。あんな金の使い方、ほんまにばかばかしいですよ。

以前、本会議でも言うたことあるんですけども、余計なことをするんだったら、じつとしいてくれたほうがましですよ。何もせんと、黙って座っといてください。あんたらがやることによって、私は県の財政やったりとか、県の活性化の足を引っ張ると思います。はっきり申し上げて。一生懸命されよるんでしょうけど。一生懸命、よそ向いて走られたら、後で修正が困るんです。部長も含めて、あれが役に立つと思っておるような部署なんだたら、正直申し上げて、私は、部署の在り方とか、ように考えないかんのと違うかなと、存続意義に関しても考えていかないかんのではないかなと思います。あんなもんが必要やと思とんだたら、活性化に力を尽くせるような能力はないと思いますよ。

あれ、ずっとほったらかしにしとくつもりですか。いつ、設置するんですか。優先順位って何ですか。場所見つけてきて、入れられるんだたら、全部入れたらええのと違うんですか。何で初めからできておったものを後に回すんですか。これだけ必要やと言うんだたら、別に構わんのとちゃうん、好きな時にでも入れたら。とりあえず改選時期迎えるから、これが終わったら、喉元過ぎたらあいつらも忘れておるだろうと、今期が終わったらそれでいいのと違うかと、とりあえずと、逃げられたらいいわと思っておるのと違いますか。どう思っておるんですか。

新田観光国際局長

御理解賜れないのが誠に残念でございますが。平成25年3月に実施いたしましたこのレリーフにつきましては、全体で3枚作っております。この3枚の設置経費につきましては、1枚当たり5万円、3枚で15万円でございます。その財源として、とくしま経済飛躍ファンドのほうから全額お金を頂きまして、作らせていただいております。

今後どうするのか。それから、まずこれが効果があるのかどうかということについての御質問でございますが、繰り返しになりますけれども、これは第1回のぷち★アソビで作りました貴重なレリーフでございますので、その集客効果はあると考えておりますが、課

長のほうから申しあげましたように、設置場所が現在のところ、決定いたしておりませんので、全部をすぐ設置するわけにはまいりません。また、地元の方々とも御相談いたしまして、今後、検討してまいりたいと考えておりますが、その残り枚数が12枚ございまして、設置する効果としては、委員、御指摘のように、声優等の全国的な著名人のほうから埋めていくほうが、誘客効果があると考えておりますので、順序としては、まずは声優からしていきたいというふうに考えております。以上でございます。

岡委員

聞つきよることに答えてないでしょ。委員長，小休してもらえませんか。

中山委員長

小休します。（10時57分）

中山委員長

再開します。（11時2分）

岡委員

ほんまにちょっと理解ができませんけど、御理解いただきたいって。この二人のパネルがあるというのは、表に出ていませんでしたよね。もし設置するんだったら、大々的に公表してくださいね。どんな反応があるのか。当たり前、何しよんと言われますよ。税金使ってるんですよ。ファンドって、税金ではないんですか。こんな無駄な金使って、わざわざ県費で設置してですよ、これで、人気があるけん人寄せにはなると言うんですから。これは考え方の相違なんでしょうけども、恐らく今すぐにでも、職を辞していただいたほうがいいと思います。能力はないです。誰に聞いたって、そんなことは言わんと思う。たまたまその時に知事におった人と、市長におった人でしょ。これから知事と市長になった人は毎回呼ばれて、毎回手形取って、毎回これを設置していくんですか。ということになってくるのでね。1回目の人やけん、特別に設置する。言っておきますけど、公職の人ですよ。ずっとおるわけじゃないですよ。それに金を使ってこんなことをするということは、どうも理解できない。考え方の違いと言われるんだったら、それは委員長のおっしゃったようにそうなんでしょうけども、こんなことに税金を使うのを許しているのかと言われたら、私は許したらいかんと思いますし、こんな話しか出てこんのだったら、ほんまに今すぐにでも辞めていただいたほうが、将来にわたって県のためになると思いますので。正直申しあげて、そう思いますよ。別に人事に関与するつもりも何もないですけど。

結局、理由も出てこん。人気があるやいうあやふやなもんですよね。僕ら、人気がないかどうかと言われりゃ、分かんなんですけど。声優さんは別にして、そない集客ができるような人気のある人ではないと思いますよ。人気のある監督さんもおるんでしょう。何なの、これって言われると思いますよ。何でこんなのがあるのって。この人誰ってなると言いますけどね。真剣に集客効果があると思っておるんだったら、さっさと付けたらどうですか。そういう気はしますけどね。おかしいと思う。

こんなこと言うの、あんたら三人だけとちゃうん。集客効果があって、これは役に立ちますと。県の事業としても、間違いなく役に立つ物ですと思ってるのは、あんたら三人ぐらいだと思いますよ。ほかにもそんなことを思ってる人がおるんだったら、こういう部署には行かんほうがええと思います。後々が困るけん。あなただって、お二人だって、ずっとこの部署でおるわけでないでね。恐らく、後始末に困るんですよ。後の人がかわいそうなので。来年になったらおらんのかもしれんけど、ずっと言いますからね。

とにかく、あんな物を公共の、公の場所に設置すると言うんだったら、絶対に反対します。別に個人の土地だったら、その人が許可をくれるんだったら、好きにすればいいけど。税金を1円でも使うというのだったら、今後もとことん追求をします。このことだけは、覚悟しておいていただいて、質問を終わります。

井川委員

今の岡委員の関連でございますが、同じくマチ★アソビということで。私は、事業自体のことについて、ちょっとお聞かせいただきたいと思います。

私も事務所、自宅ともに、マチ★アソビの会場から1キロメートル少々の所にあります。中心市街地にも比較的近い所に住んでおるのですが、阿波踊りの時だったら、いろんな人が歩いてるんですね。近くのラーメン屋で行列を作ったり、人もいろいろあふれる、街全体がざわざわとしたような雰囲気があります。今も言っていましたように、マチ★アソビに、延べ人数は44万人を超えて来ているということで、確かにたくさんの方が来ておりますけど。私も事業としては、やっぱり人をこれだけ入れ込んでいるということ、集客に関しては、ものすごく認めなくてはいけないかなというところはあるんですが。マチ★アソビ自体、私もよく分かりませんし、どういう人が、県内外どれぐらいの割合で来ているか、ちょっとお教えいただきたいんですが、お願いします。

新居にぎわいづくり課長

井川委員から、マチ★アソビの来場者の属性について御質問いただいたところでございます。毎回アンケートを取っておりまして、ぶれはあるんですけども、大体ざっくり申しますと、半分が県外から、半分が県内というような割合でございます。以上でございます。

井川委員

ということは、今まで延べ人数で二十数万人の県外の方が来られているということでございますが、お若い世代が多いということで、その時に秋田町に行っても、街中のレストランに行っても、そんなに客が増えているような気もしませんし、確かに人が集まっているということは本当にうれしいことではあります。何かもう一つ実感しないというのが現状であります。私も50歳を過ぎまして、ちょっと世代間ギャップがありまして、なかなか素直に街中に入って、よう楽しめんというところもあります。

徳島の中心市街地の活性化なくして、徳島全体の活性化はないと私も考えております。県が進めるマチ★アソビの事業であります。観光客の増大とともに、会場となつていまず徳島市の中心市街地、とにかく徳島駅から阿波おどり会館までのあのラインに、昔のよ

うに、人が肩を擦り合って歩いてくれる。それから、やっぱり徳島県全体のにぎわいづくりとか、活性化が始まると思っております。

今も岡委員の質疑でいろいろ話しておりましたが、この事業における目的についてももう一度お聞かせいただけないかと思っております。

新居にぎわいづくり課長

マチ★アソビのイベントの目的についてという御質問を頂いたところでございます。

マチ★アソビは、徳島を遊び尽くすということをコンセプトにいたしました、複合エンターテインメントのイベントでございます。徳島のシンボルでございます眉山、新町川、この周辺でございますボードウォーク、阿波おどり会館、東新町、JR駅といった所を軸にいたしまして、イベントを開催させていただいております。一般的なアニメイベントと申しますのは、都市部にあります大きな屋内型のイベントというのが一般的でございますが、これに反しまして、徳島は先ほど申しましたように、街を遊ぶ、街中に人を出させるということを目的にしておりますので、わざと徒歩15分圏内に、イベント会場を配置しまして、その中をアニメファンが歩き、徳島の街の魅力も満喫していただきたいという目的でさせていただきます。

そして、もちろん先ほど委員から御指摘がございましたように、全国からアニメファンを徳島に誘客するということが、交流人口増大を目指してございまして、また、ひいては、中心市街地の活性化につなげてまいりたいと考えておるところでございます。以上でございます。

井川委員

中心市街地の活性化を図るといふ観点から、アニメによる観光客の増大のために、更にもどのように取り組んでいくのか、お聞かせいただきたいと思います。

新居にぎわいづくり課長

マチ★アソビにつきましては、もちろん一番ファンを魅了しますのは、取り扱いますその時のコンテンツと申します、アニメの作品群というものがああります。全国でよくありますアニメの地域興しは、いわゆる聖地巡礼というものでございまして、その地がロケ地になっていると。よくNHKの大河ドラマとか、朝ドラも同じ現象が起きますが、その放送している間には、その場所にファンが訪れるという、そういう傾向がアニメにもございます。ただ、徳島の場合はそうではありませんで、5月と10月にやっておりますが、その時、あるいはそこから放映されるアニメという、非常に新しいアニメを魅力として取り込んでおりますので、いわゆるアニメの旬、今しか、今が一番という、そういう作品群を集めて、アニメ好きの子たちが集まってくるということが、まず一つ大きい点でございます。

また、これからますます増やしていくというところにつきましては、例えば春と秋につきまして、会場を広げていくことでキャパを広げて、どんどん集客を増やしているところでございます。

先ほど、秋田町にうんぬんというお話がございましたけれども、マチ★アソビ期間中は市内の、特に中心部のホテルは全部満杯ということになってございまして、それでも泊まれ

ないというお客様のお声がございますので、今回などは、幾つかのホテルにお願いしまして、相部屋でお願いするとか、あるいは阿波踊りの時みたいなの、大広間で宿泊といったような、格安プランを作ったりいたしまして、宿泊客が、今、本当にキャパを超えておりますので、それを何とか増やしていこうという取組もしておるところでございます。以上でございます。

井川委員

本当に宿泊はすごいですよね。普段、徳島は観光客、特に泊まってくれるお客さんが少ないということで。観光と言えるかどうかは別として、本当に人は集まってきているし、ホテルの業界は確かに潤っていると思います。ただ、私が思う観光というのは、やっぱりおいでいただいて、飲み食いしていただいて、お土産を買っていただいて帰ってもらう。こうしないと、やっぱり県の観光事業というのとはにかく成り立たないんじゃないかと、このように思います。

特に要望しておきたいことなんですが、徳島の県議としまして、最初に言いましたが、中心市街地、特に徳島駅から阿波おどり会館に抜けて、あのラインをやはり歩いてくれる。川の駅構想もありまして、川の駅を使って、ボートで周遊する、また歩いてもらう、そういう客が増えないと、本当の意味での徳島の活性化にならないと思います。

まず、何よりも、今、若い世代の方がマチ★アソビにたくさんおいでいただいているということでございます。その方がやはり徳島に魅力を感じてもらって、もう少し大きくなって大人になって、結婚して、ゆっくり夫婦でもう一回徳島を訪ねてみようかと、そういう気持ちになってもらえるような街づくりをしていかないと意味がないんじゃないかと思っております。徳島市西新町の再開発事業も組合が設立されております。ということで、やっぱり人がもう一回集まってもらう、交流してもらうためには、施設も必要だと思っております。それで、ちょっと私も提案がありますが、経済センターの土地が今、空き地で、結構メイン通りをちょっと入った所にあります。ああいう所にもやはり何か食べて、飲んで、お土産が買える、若者ががっと集まれるような、そういう交流施設というのも、県も考えていただけたら有り難いかなというところで。やはり徳島の中心市街地活性化なくして、徳島県全体の活性化はならないと思って、いろいろ御検討いただきたいと思っております。以上で終わります。

樫本委員

交流促進、空港の整備及び利活用について、お伺いをしたいんですが、交流促進を図っていくためには、多様な交通手段の確保、そして利便性の向上というのが求められるわけです。その中で徳島阿波おどり空港の利活用の促進について尋ねてみたいんですが、自衛隊との共用空港になっておるということで、羽田のように無制限に近いぐらいの、どんどん路線の拡大化というのは求めにくいんですが、どのような制限があるのか、まずお伺いをいたしたいと思っております。

岡本交通戦略課長

徳島阿波おどり空港の運用について御質問をいただいたところでございます。

徳島阿波おどり空港につきましては、海上自衛隊の基地を民間航空と共用化した、いわゆる共用飛行場でございます。滑走路の管理や航空管制につきましては、防衛庁さんのほうで行っているところでございます。具体的な運用制限につきましては、海上自衛隊の訓練用の基地ということになってございますので、訓練をしている時間の合間を縫って、民間航空機が発着をしているという状況でございます。朝から夕方にかけて、発着禁止時間帯というものがございます。それは時間帯によって、30分間隔、30分あって、15分民間航空機が発着の時間でありますとか、そういった発着禁止時間帯というものがあほか、1日を複数の時間帯に分けて、全体の航空機が発着についても、自衛隊と協議を行いながら決めていくという、そういった運用制限があるところでございます。以上でございます。

樫本委員

海上自衛隊の訓練の発着の合間を活用して民間航空の発着を行っている、ということなんですが、今、東京便、そして福岡便とあるわけですが、自衛隊との交渉によって、具体的にあとどれぐらいの便が発着できる枠を確保できる可能性があるのか、そのあたりをお伺いしたいと思います。

岡本交通戦略課長

具体的な発着枠の見込みの御質問を頂いたところでございます。

これまでも、設置管理者たる防衛省さんの御理解を頂きながら、徳島阿波おどり空港については、自衛隊と民間航空が共存する形で、徳島県の県政発展、県民生活の向上に大きな役割を果たしてきたところでございます。

防衛省さんには、これまでの東京線の増便でありますとか、札幌線の再開に当たっても、十分な御理解、御配慮を頂いているところでございまして、具体的な就航の計画なり、予定が明らかになった際に、しっかりと協議を行っていくといったことなのかと思っておりますので、具体的に今の時点でどれぐらい枠に余裕があつてというよりは、具体的な計画がないと、あちらのほうもいろいろ訓練のスケジュールなりございますので、そういう時点で個別に協議をしていくということだと思っております。

樫本委員

要するに交渉の余地はあると。便数の拡大に向けては、もう少し交渉の余地があるというふうに感じました。そういうことですね。

そこで、6月定例会で、羽田の更なる発着枠の拡大のために……。これは、現在1,300万人の外国人の訪日客があつて、オリンピック開催までに2,000万人に拡大していこうと、こういう動きがあります。そこで、まずは羽田に来ていただく、東京に来ていただいて、そして羽田、東京から地方に更に便を拡大して、外国人を迎えると、こういうことが考えられるわけでございます。さらに、オリンピックやパラリンピック、関西マスターズゲームなどの大きなイベント、大会があるわけでございますから、それを機会に、本県にもお越しいただくという戦略を立てていかななくてはならないと、こんなふうに思います。

今は、JALとANA、2社が阿波おどり空港に就航しておるわけですが、これは余り

にも運賃が高過ぎます。そこで、LCCを徳島にも是非来ていただけるような動きをとるべき、要請をするべきでないかと、このように思うんですが、いかがなものでしょうか。

岡本交通戦略課長

LCCの誘致ということで御質問を頂いたところでございます。

LCC、格安航空会社でございますけれども、こちらにつきましては、一般的に自社システムによる航空券のネット直販、また乗務員の訓練費、整備費用を抑えるための単一機材の使用、また飛行機の稼働率を重視した短距離で多頻度の運航、また機内サービス、荷物運賃の有料化などによって、いわゆる従来の航空会社とは別のビジネスモデルによりまして、低コスト、低価格運賃の提供を実現しているところかと思えます。

LCCの参入につきましては、利用者にとって低価格で乗ることができる、また移動手段の選択肢が広がる、また新しい需要層の創出といったところにも、効果を期待できるところでございます。

徳島阿波おどり空港へのLCCの誘致というところでございますが、LCCにつきましては、先ほど申し上げたメリットがあるという反面、従来の航空会社に比べまして、飛行機の定時制の点でありますとか、そういったところでいろいろと片方で課題があるというふうにも承知をしております。いずれにいたしましても、徳島阿波おどり空港の航空ネットワークをこれから更に充実していくという中におきまして、LCCも含めて、一般のいろいろな状況など注視させていただきまして、情報収集に努め、エアポートセールスを行ってまいりたいと考えております。

また、先ほど委員のほうから、従来の航空会社さんではちょっと運賃がというようなお話もございましたけれども、徳島阿波おどり空港に東京線で就航しております航空会社さんのほうの取組で、訪日外国人につきましてはかなり安価な運賃で国内定期路線に乗れるという、そういう割引運賃も設定をされているというふうに承知しております。以上でございます。

樫本委員

外国人には格安でディスカウントして、ANAもJALも売っているということは知っております。それも分かるんですが、飛行機って、JALも全日空も余りにも高過ぎるんですよね。東京ー徳島、およそこれ600キロメートルとしますね。燃料は、東京便で100キロメートル当たり、今の機材で3リットルで行ける。600キロメートルですからね、18リットルで行けるんです。そしたらね、燃料代としても非常に安い。あれは灯油ですからね、ジェット燃料というのは灯油なんですよ。だから、灯油100円にしてもね、燃料費は1,800円ですよ。あのぐらいエネルギー効率のいい乗り物はない。空気抵抗やから、非常に軽く飛んでいるんです。エネルギー要らない。それにしても余りにも3万円は高過ぎる。LCCの航空運賃体系、あれが普通ですよ。これから外国人もビザの発給のいわゆる規制を解除して、低所得者でも多様な人がどんどん日本に来るようになっていきます。更にそれが進むでしょう。東京の銀座なんか歩いても、半分は外国人です。それぐらいアジアの人がたくさん、更に来るようになります。より安い航空運賃でないと、日本に誘客はありません。そういうことで是非ひとつ、今就航しているJALや全日空には少し悪いんですが、LC

Cもね。そうせんと、よその地方空港に負けますよ。よその空港は積極的にやっています。本徳島県も是非低所得者のための航空会社として、LCCを是非ひとつ、徳島便でも就航させて、徳島阿波おどり空港の活性化を図ってもらいたいと要望して、終わりたいと思います。

重清委員

企業誘致の補助金の指定のやつで、補助金を交付するとかとあります。この金額というのは、どういう制度になるか、ちょっと詳しく教えてください。それと、今までのこういう事業で、神山町とか美波町へいろいろ来ておるんですけど、同じような補助金、どれぐらい出してやっているんですか。

小林企業支援課副課長

ただいま、重清委員から、企業誘致の推進についてということで、補助金の件について御質問を頂きました。

この補助金につきましては、記載のとおり、ふるさとクリエイティブSOHO事業誘致事業補助金というものでございまして、その中身につきましては、通信の使用料でございまして、新規に雇用された方について補助金を打つというものでございます。その通信の使用料につきましては、限度額が年100万円、これが3年間、それと新規の地元雇用につきましても、正規の方が1人30万円、それから非正規の方につきましては、1人15万円ということで、これも3年以内というふうな状況となっております。

次に、これまでの補助金の概要でございまして、ふるさとクリエイティブSOHO事業の補助金につきましては、全部合計で10事業所に補助金を交付しております。額につきましては……。

中山委員長

小休します。（11時29分）

中山委員長

再開します。（11時31分）

小林企業支援課副課長

失礼しました。補助金の交付状況でございまして、直近の3年間で申しますと、平成25年度につきましては492万2,000円、24年度は189万円、23年度につきましては20万1,000円という状況となっております。以上でございます。

重清委員

これから徳島県中山間地域の地域創生ということで、こういう事業を適用して、地域の企業、雇用を守っていかないと、創り出してもらえないかんですよ。しっかりと、今のこれぐらいの金額はぱんぱんと出して、まだこれぐらい予定しているとか、いろんなほんまは出してほしいんですけど、こんなのを聞きゃったら、よう出さんだろけん。ほ

んまは、やっぱりここに力を入れてくださいよ。本当にこれは。3年間でどうかな、5年続けてほしいとか、いろんな要求も出てきよると思うんですけど、しっかりとこれに応えていってほしいと思います。校舎とか空き家の有効利用、これは町づくりの交流事業と思いますので、この点はしっかりとするように、来年度はしっかりやるように要望しておきます。

それと、広域交流ということで、三番目の徳島ヴォルティスのJ1昇格を生かした広域交流の促進、これ、なかなか厳しい状況になっておるんですけど、鳴門は今、工事に入って完成する前にJ2かという話がもう見えてきておりますけど、最後まであきらめんと頑張してほしいと思います。これ、J2になっても一緒に、いろんな地域との広域交流というのは、J1になってどういう交流をしているんだと。来年度J2になっても一緒ですけど、ここはやっぱり生かしていかんだら、相手からサポーターが300人、400人であろうが、年間何千人も来ますし、またそれだけ徳島からなかなかよう行かんですけど、日本中相手チームの所へ行ってますので、交流して本当に徳島へまた来てほしいなという。ほんまに今、いろんなことをできよるのかどうか。来年またせなあかんのやけど、いかないかんのやけん。交流に対しては、今、どういうふうな政策をやっているのか。

新居にぎわいづくり課長

交流について御質問いただいたところでございます。

J1おもてなし事業は、三本柱がありまして、そのうちの一本がやはり観光交流ということでございまして、現在はホームアンドアウェイの試合に、観光のPRに行かせていただきまして、例えば徳島市さんに助成金を出していただきまして、徳島市内のホテル、一応組合のホテルでございましてけれども、お泊まりいただいたら、2,000円引きといったような御案内でありますとか、あと県内を周遊していただいたら、お得なパスポートの発行でありますとかということ、まずホームアンドアウェイ方式でその試合のある所に行きましたり、あと後半になりますと、ホームアンドアウェイが済んでいますので、もう徳島に来てしまったというところがございまして、それにつきましては、次節、徳島に来るというホームの試合まで出向いていって、次は徳島やけん、徳島に来てくださいというようなPRをしたり、あと、やっぱり四国島内でもPRせないかんということで、香川のカマタマーレでも、本拠地に行って、試合の時に、J1の試合も見てくださいといったようなPRもさせていただいて、観光誘客に努めております。もちろん、試合当日には空港、それから徳島駅、鳴門駅、それからスタジアム内に観光案内所、物産販売所を設けておりまして、積極的にアウェイのサポーターに対して働き掛けをしております。以上でございます。

重清委員

いろんな広域交流しよる中で、一番のPRというか、もてなしは何をするんですか。今、言ったような、ホテルを安くするとかそういうのやなしに、せっかくヴォルティスがJ1になって、いろんな交流ができるようになった。それをどういうふうにかっしよるのかと。これね、インディゴも一緒なんですよ。プロ二つできたといつて、今、見ると、一つも生かされないやないかというふうな。できた時は大々的に言いながら、後はフォローが

ないやないかというのを見よってね。どういう交流，接待したらいいか，また来てくれるんだと。徳島のそこらが見えてこんなというのが……。来た時のメーンのPRは何なの。どれを見よるんだと。日本中どこでも。それは僕ら見よっても分かんですよ。やっぱりそういうものをしていかなんたら，いつまでたっても……。徳島もう一回来たいなという，それは何だと，それは今見えませんよ。そこら，やっぱり考えていかなんたら，いつまでたっても同じやないかと。J2になったら，また減っていくんかと。インディゴも一緒に，試合の時だけ，ファンだけが来てという。もう一回徳島へ来たいという，それができよらんのと違うかいなと。さっきのマチ★アソビも一緒ですよ。アニメの時は来ますわ。それからもう一回来たいというシステムを作っていますかという，そこらをどのようにして，意気込みだけでもちょっと教えてもらえますか。

新居にぎわいづくり課長

リピーター対策をどのようにするのかという御質問だと思っております。

今回，私ども，アウェイでありますとか，県外に行って，観光客の方とお話しさせていただくんですけれども，やはり今回のJ1で一番私が肌で感じましたのは，徳島に行くんだという目的がある方に，観光の丁寧な情報発信ができるというのが，これ，一番大きいなと思いました。現地では，何時に徳島に入る，それだったら，渦が何時に見えますよとか，そんなお話をさせていただいたり，もちろんその時は物産を持っていっておいりましたので，こんな物を食べられますとか，おいしい物がありますよとかいうような丁寧な情報発信を本当にマンツーマンでさせていただけたというのがあります。

また，私が名古屋に行った時には，すだちのつかみ取りというのをさせていただきまして，物産を買っていただいた方にすだちのつかみ取りをして，一人で10個だったり，大きい人だったら15個ぐらい取れるんですけど，手で取っていただいて，徳島へ行ったら，すだちがおいしいですよという直接そんなお話をさせていただいたり，あと，徳島に実際，来ていただいた時には，スタジアム内に毎回なっ！とくしま号が出てきておまして，その時々が一番おいしい産物の試食でありますとか，観光PRとかさせていただいておるところでございます。

今，委員から御指摘がありましたように，せっかく来てくれた人に，また徳島に来てもらいたいということを情報発信するのは一番大切なことでございますので，そのための本当にマンツーマンのいい機会でございますので，まだ少し残り試合でございますので，来られたサポーターの方に丁寧にお話しさせていただき，アンケートも取っておりますし，わかめとかいろんな物をお渡ししたり，話ができるような機会を持っておりますので，そういう丁寧な対応からやっていきたいと思っております。以上でございます。

重清委員

今，すだちの話が出たけどね，これも農林水産品等の販路拡大で，すだちのPRも本当に下手ですよ。これをどうやって広めていっきよるんだと。まだ，かぼすに負けよるやないかと。まだ，関東ではそれほど知れ渡ってないですよ。どういうふうにしてPRしていくか。僕らも今までずっとブランドづくりとあって，いろんなことをやってきたけど，次はやっぱりもう一步踏み込んでいかなんたら，何年たっても一緒やないか。目黒のさんま

祭りにすだち出っしよるけん、これでPRできておりますと。それだけかという話で、もっともっとPRしてあげないなら、農家の人らだって、もうかる農業にならへんやないかと。そこはやっぱりきちっとしておいてほしいと。

最後に、今、お遍路さんがようけ来ますけどね。外国人が結構歩き遍路で来よるんですよ。見かけたところ、うちの田舎町ずっと歩いてくれるんですけどね、そこらに対してお接待をどういうふうにするのかなと。どれぐらい増えておるのかなというのを、やっぱり数字をつかんでいきよんかなと。それに対して何が足らんかというのもできていくかなと思って、せっかく1200年でやって、増えてはきておるようなんですけど、その対応が今までと一緒に話にならないと思うので、今せっかくの機会、来ている時に、またその人らが自分の国へ帰った時にPRしてもらおうようなことを、本気でやりよるかどうか、どんなですか。今、外国人の方、ようけ来て、歩いてますよ。この方たちにほんまに徳島県としてのもてなしをやっておるかどうか、お伺いします。

藪下国際戦略課長

ただいま、委員から外国人のお遍路の方等々に対する対応ということで、御意見を頂きました。

正に委員のおっしゃるとおりでございまして、外国人の方、欧米の方も含めまして、最近多いということも、私ども、聞いております。そういったことに対しまして、関連部局等々と連携しながら、観光案内板であるとか、それから道路標識、こういったものについても多言語化を現在進めている途中でございまして、十分ではございませんけれども、今現在、進めているというところで御理解いただければと思います。よろしく願いいたします。

重清委員

そこまで分かっておるんだったら、いろいろもうちょっと踏み込んでほしいのよ。せっかく来て、多いけん、ああよかったですねではないと思うんですよ。徳島は、本当にまた来てほしいというのを、県の観光でせないかんで。それはどないするのだと。今、外国人の人に対して、何が足らんのか、そこらも把握できるのかどうか。それをせなんだら、次の対策を打てんやないかと思えますけどね。そこらはきっちり状況を把握して、問題点もこれやなというのを把握して、次なる対策を打って、いかにして来てもらうかというのをしてほしい。これは強く要望しておく。そうやないと、観光や交流や言うたって、来るのを待つだけはいかんというのはもう分かっておるでしょ。それをしてほしいですよ。

それと、先ほどマチ★アソビと言ったけど、それは僕らもやっぱりまだついていけんところもあるけど、それやけど、やっぱり高齢者の人、アニメ好きな人はこれがええんかなと。確かに取組はいいと思えますよ。内容的に僕らはようついていかん部分ありますけどね。これはやっぱり広めたらどうかなと思えますけど、ただ、岡委員さんが言われたように、分かりにくいところ、何でなんよ。それは早く進めたらどうですかと。今のままでは宙ぶらりんで、プレート据えられるけど、据えられんと。据えたらまた文句言われるけん、ようせんという話。そうやなしに、どういう内容か。内容は僕らは分からん。何で、したかと。そやけど、アニメ好きのオタクの知事と市長が仲良く、あの仲ええ二人が一緒のプ

レートであるという話で、アニメを進めていきませんかというのではないのかなと、見ておらんだけに、私なりの理解はこれぐらいしかようしませんけどね。やっぱり仲のいい二人でしょ。それが仲良く手形を取って。

もしも県の税金使って予算組んだんだったら、据えるべきですよ。計画は3年ですか、これ、25年度に作っておるやつは。本当は県の予算は一年一年で消化するべきと思うんやけど、そんな25年に作ったものを5年先、10年先に設置しますという予算ですか。予算もまた違っておったら、関係なしでおるんですか。そこはどうなんですか。

新居にぎわいづくり課長

予算の関係でお話を頂いております。当初作らせていただいた時につきましては、まず製作するだけで、3月に実施いたしましたので、それで事業は完結しておるところでございます。事業の予算立てにつきましては、その年に設置するというのでありませんで、まずはレリーフを作っていくというところ、それからそのレリーフにつきましても、徳島県に来県された方で、なおかつ受賞者であるということでもありますので、そういった意味で集積を待っているというのが状況でございます。以上でございます。

重清委員

俺やったら、そんな言い方したら、何のために作ったと言われる岡委員の気持ちも分からんでもないんやけどね。ほんまに作ってるんやったら、とっとと処理せなんだらいかんのと違うの。それは思いますよ。何のために作ったの。設置するために作ったんだったら、本当に設置したらどうなの。徳島県で一番アニメの好きな飯泉知事と原市長が……。

（「市長が好きかどうか分かりませんよ」と言う者あり）

そういうふうによっぱり前に進めないなら、宙ぶらりんでどっかで置いておるというのではあかんと違いますか。もうどうしてもあかんのやったら、二人に5万円ずつ出してもうて、半分に割って、置いてもうたらええですやん。よう設置せんやったら、そうやって片を付けていかなんだら、いつまでも25年に作ったやつを宙ぶらりんで置いておくのかという話は確かに出てきますよ。県としての対応を、はっきりと示していくべきだと思いますけどね。俺ら、あんまりアニメ、分かりません。アニメは好きですけどね、あれはなかなかようついていかんとこもありますけどね。そこはやっぱり市と県の協調というので、何か考えてやるのかなと思うのやけど。仲のええ二人だけに、俺は思うのやけど。広域交流は本当にしっかりと、観光とか大事なものがあるんですよ。いろんなネットワークもありますけん、もう次の委員会にはしっかりとした方向付けなり、対策を作ってもらえますか。次の12月は聞きますけど、よろしくお願ひします。終わります。

川端副委員長

それでは、私からも何点か質問いたします。

まず、地方創生に関する一連の質問ということで、最初に情報発信の在り方ということでお尋ねします。10月5日の徳島新聞の記事の中に、石破地方創生大臣に聞くという記事がございました。この中で、地方創生についての取組のアイデアが幾つかあったなというふうに思っております。

まず、地方創生という観点から、これから徳島県をしっかりと全国にアピールをし、そしてそれがひいては住民の移住と申しますか、徳島に住んでもいいというふうな方の獲得につながるということを私は大いに期待しております。そこで、まずは最初に、情報発信の方法には、アナログで行く場合もあれば、デジタルで行く場合もあれば、様々な手法がありますが、情報発信の在り方について、どのようなお考えがあるのか、お聞きいたしたいと思っております。

玉田総合政策課政策調査幹

ただいま、情報発信の在り方ということで御質問を頂いたところでございます。

県におきましては、農林水産物や観光、定住など、幅広い分野につきまして、情報発信を行っております。施策を訴える対象とか目的につきましては、その分野によって様々でございます。そういうことから、訴えたい対象や訴えたいテーマの重点を絞ってアピールすることが、効果の点で望ましいといったようなものにつきましては、分野ごとの情報発信を行っているところでございます。また、発信の手段につきましては、その内容に応じまして、紙媒体、テレビ、ラジオ、ICTなどの各種広報媒体を活用した情報発信を行っているところでございます。

委員からお話がありましたように、より効果的に施策を発信するために、対外発信戦略統括本部等を活用いたしまして、情報共有や検討を行って、本県の良さを更に効果的、戦略的に発信できるように努めてまいりたいと考えております。以上でございます。

川端副委員長

一般的にはそういうふうな答えになると思っておりますが、私が聞きたいのはね、デジタルやアナログや、様々な手法があるんですが、それぞれがまちまちに情報発信するというのではなくて、それぞれの手法が一つの関連があって、時期的にも、この時期にはこれを特化して強調してやるとか。デジタル方式でやったり、それからアナログとしては、ラッピングバスであったり、新鮮なっ！とくしま号、ああいうふうなものでやったり、いろんなことがあるんですが、それぞれがまちまちにやるというのではなくて、ある一つの考えの下に集中して、あるテーマをしっかりとやっていくというような、そんなめり張りのやり方をやっていただきたいと思うんですが、もう一度その件についてお伺いしたいと思っております。

玉田総合政策課政策調査幹

発信の手段についてでございますけれども、訴えたい相手につきましては、インターネットや、それからいわゆるソーシャルネットワークシステムなど使って情報収集をされる方、それから逆にICTを使わない方、いろいろおられますので、先ほど申し上げましたように、いろいろな媒体を使って発信をしているといったようなところでございます。

委員からお話がありましたように、連携をすることで効果的に施策が発信できるといったようなものも多いと考えてございますので、先ほども申し上げましたけれども、対外発信戦略統括本部、このような組織も活用いたしまして、情報共有の検討を行って発信をしてまいりたいというふうに考えております。以上でございます。

川端副委員長

ひとつそういった張りのある発信を心掛けていただきたい。これは要望しておきたいと思います。

次に、地方創生に関する質問をしたいと思いますが、この地方創生というのは、県の役割というのは司令塔の役割だと、市町村をうまくコーディネートして、県全体の創生プランを作ってもらんだという、石破さんの話の中にそのようなことがありましたが、この市町村との関係ですね。これから、県は市町村をどのようにコーディネートしていく計画なのか、教えていただきたいと思います。

露口総合政策課政策調査幹

地方創生における市町村との関連というような御質問かと思えます。

10月3日に今回の代表質問で御答弁させていただきました県の地方創生本部を直ちに立ち上げさせていただいたところでございます。これは庁内組織ということで、知事を本部長といたしまして、各部局長が本部員という形で立ち上げておりますが、今後、委員のおっしゃいますように、国がこれほど地方創生を掲げるという中であって、やはり地域の実情や特性、それぞれに異なる中で、そういったことを踏まえた地方からの知恵を出していくということがますます求められると思いますので、そうなってきた場合は、やはり県として、最前線である市町村をいかにコーディネートしていくかというのは非常に重要であると考えております。

県内を見ましても、人口減少、高齢化と一口に言いますが、県央部と、あるいは県南部、県西部とでは進行状況も異なりますし、地域資源を活用するといった観点にしましても、サテライトオフィスという活性化策がある地域もあれば、林業で活性化を図るべき地域もありますし、観光資源を活用して、交流人口に目を向けるといった地域もあるかと思えます。そういった地域の実情が異なりますので、それぞれに何が最適なのかといった選択肢は異なってくると思います。

そういったことを、まず県が司令塔となってくみ取っていくことが必要なのかなと考えておるところでございます。まず、これも本会議でも御答弁をさせていただきましたが、最前線である市町村の実務者レベルで、県との連絡会議といったようなものを立ち上げたいと考えておられて、そこで、先ほど申しましたようなそれぞれに異なる課題ですとか、今後の方向性といったものを共有し、また今の国の今後の動向にいかに対応していくかということで、連携の強化を図っていくなど、進めてまいりたいと考えております。

川端副委員長

当然そういう市町村と連携を取るというのは、イメージとしてはよく分かるんですけどね。市町村のどんな立場の人が県と情報交換をすることになりますか。

露口総合政策課政策調査幹

今、考えておりますのは実務者レベルと申し上げましたけども、今後、市町村におきましても、国の法案に基づきまして、地方創生の総合戦略、これの策定が努力義務となっておるところでございます。ですから、その実務に当たるであろう方ということで、例え

ば総務担当，あるいは企画担当の課長クラスの方といったところをまずは想定をしております。こういった方とのまず連絡の場を設けたいと考えておるところでございます。

川端副委員長

よく分かりました。国のほうの考えとしては，市町村に人も振って，そして支えたいという話もありますね。その時に出てきた言葉の中に，シティマネージャー，これは国から派遣をされる。大体5万人以下の市町村に送ってくるわけなんですけど，この方の役割というのは，県との調整役とか何かそんな格好にもなるんですか。

露口総合政策課政策調査幹

シティマネージャーについての御質問でございます。

委員がおっしゃいましたように，国のほうで中央省庁の職員を，希望のあった市町村の中から選定いたしまして，2年間ほど派遣するというシティマネージャー制度というのが，今，浮かび上がっておるところでございます。まだ，市町村に対してもそうですが，県のほうに詳細な内容等，伝わってきておりませんで，今後，具体化して，早ければ来月ぐらいから募集が入るといような報道もあるところでございます。これにつきましては，市町村に国から直接派遣をいたしまして，今のところ聞いておりますのは，副市町村長クラスということで，首長さんをサポートする立場に就かれるということ想定されておるところでございます。

そのシティマネージャーが仮に実現した場合，県との関わりにつきましては，当然，副市町村長さんクラスの立場ということですので，先ほど申しました市町村の総合戦略なり，地方創生の取組を検討する中で，例えば県の地方創生本部との連携でありますとか，我々担当部局との連携といったものは，当然発生してまいることかなと考えております。

川端副委員長

分かりました。

それでは，次に，今度は徳島県から中央省庁の利用の仕方というのは，ちょっと言葉としては適当でないかも分かりませんが，国からの情報をいち早くしっかり取ってくるというそういう取組として，県出身の国家公務員の方々，どうも石破さんの話の中では，どの県でも最低100人ぐらいは国家公務員として向こうのほうにいるんだというふうな話でありましたが，これは我々の相談相手として，これからも大いに期待もできると思うんですね。そういう国家公務員のデータベースというか，リストというか，県人会の名簿というか，そのあたりの状況というのはどうなっておりますか。

露口総合政策課政策調査幹

委員から御質問のありました，本県出身の国家公務員，恐らく中央省庁で勤務されている方といったことかと思えます。

データベースというか，そういう網羅したような形であるかどうかは別といたしまして，例えば東京本部，あるいは各部局それぞれに所管省庁があるかと思えます。そういった中で一定の県出身の方，あるいは本県に勤務されて，戻られている方，そういうゆかりのあ

る方を、データベースといいますか、名簿といいますか、一定の形で把握はしておると思っているところでございます。

川端副委員長

これは大きな本県の力になってもらう余地のある分野だと思うんですね。単に何省に誰がいるというふうな、勤続年数何年というふうなそういうことだけじゃなくて、その方が過去にどういうふうなことに携わった方かというようなことが、ある程度我々にも分かれば、我々、いろんなテーマでよく東京には勉強に行きますけれども、そういったときに、この人に是非会ってこようということによって東京のほうに伺うと、また内容も非常にいい視察の内容になったりするわけですが、是非この際、国もそういう気持ちがあるわけで、地方に目を向けているわけですから、国家公務員の方で、地方ゆかりの方で、そしてその方たちが過去にどういう経歴や、そしてまた成果を収めた、そういうふうな個々の少し掘り下げた情報も収集して、そして我々の活動にも、是非活用させていただきたいというふうに思うわけです。

これは、今、そういうふうなデータベースのようなものはないというお話ですが、是非これについては前向きに検討して、将来、理事者の皆さんをはじめ、我々議会のメンバーでも、そのリストを元に、いろんな勉強ができるような、そういうふうな仕組み作りをお願いしたいと思います。これも要望で。

それと最後に、観光戦略について少し質問いたしますが、これまたこの石破さんが徳島においでた時に、私、直にお話を伺った時に聞いた言葉ですが、観光というのは、今だけ、ここだけ、あなただけ、こういうふうな切り口で進めるべきだというそんな指示だったと思うんですね。今だけ、ここだけ、あなただけという、このキャッチフレーズ、これを徳島に置き換えた場合に、徳島県としても、もちろんそういうふうな観点があると思いますけれども、今だけ、ここだけ、あなただけ、これ、徳島版はどんなふうになるんでしょうかね。

仁木観光政策課長

今だけ、ここだけ、あなただけという観光戦略についてでございますけれども、いつでも、どこでも、誰でもというのが、裏を返しますと言えるわけでございまして、つまりどの地方でも当てはまる、日本全国どこでも当てはまる、どこでも使えるよといったような既製品の観光プランとか、観光ルートとか、そういったことではなくて、今だけ、つまり旬の魅力を生かすと。ここだけ、地域性でありますとか、個性的なものを出す。あなただけ、創造性といいますか、お客様の御希望、御要望、オーダー、そういったことに可能な限り、きめ細かに応えられるおもてなしと、そういった受け入れ体制の整備はもとよりでありますけれども、正に観光客の皆様的心をつかむことができ、旅先として徳島を選んでいただけると、そういった取組が大事だということが、徳島県に置き換えた場合には必要だろうと思います。

この具体的な取組といたしましては、おどる宝島！とくしまキャンペーンを、昨年秋から実施してございますけれども、この中で、例えばテーマ性のあるプランの設定といたしまして、女子旅、お遍路をテーマにしたものを作っておりますけれども、例えばその中に

グルメでありますとか、パワースポットでありますとか、いろんな女性の方のお好きな、女性に受けるものの要素を組み込んだようなプランを作る。また、今年度下期、秋冬につきましては、高齢者、シニアの方や、また家族での旅、冬休みに家族で旅をしようと。冬休みは閑散期ということもございますので、こういったときに、県内3圏域それぞれを回って、宝探しをしてもらうといったような、新しい取組も考えているところでございます。

また、こうしたいろんな魅力を組み合わせて、旅行商品化するということが大事でございますので、着地型の旅行商品、それぞれの地域で地域性を生かしたようなもの、正に、今だけ、ここだけ、あなただけのような、そういったものをできるだけいろんなものを作って、これを直接売るのはもとよりでありますけれども、出発地側のほうの旅行エージェントへもどんどんと発信をしていきたいと考えてございます。以上でございます。

川端副委員長

前回の委員会でも、着地型旅行、別名地旅というんですね、この着地型観光がこれからの一つの観光の在り方ということで、鳴門も今、鳴門市の中に観光協会もできて、地旅に対する取組も行っております。県西部も、そして県南部もそれぞれにこれから活発にコンテンツというんですか、旅行商品、小さな地元にはかない、地元ならではの旅行商品をたくさん作ってくるという、そんな時代になるわけですね。

県の役割は、これを是非大手の旅行会社、こういうふうなところに発信したり、また、外国に向けて発信したりという、そんな役割もあるんじゃないかと思えます。今だけ、ここだけ、あなただけの、このあなただけの、読んだ人が、これは私の思っておったやつやという、そういうふうなことに訴えかけられるような工夫を是非していただきたいというふうに思います。

それで最後に、これ、私がたしかこのたびの質問で行ったと思いますが、外国人のレンタカーについてなんですが、レンタカーを活用した外国人観光誘客への取組の話が、中四国サミットで出たんですね。この概要と、それから徳島県がこれをものにできるのかどうか、この二点についてお伺いします。

藪下国際戦略課長

今、副委員長のほうから、中四国サミットで知事のほうから提案されました、外国人向けのレンタカー割引の件について御質問いただきました。

背景をまず申し上げますと、観光庁で実施しております、訪日外国人消費動向調査という調査がございますけれども、これによりまして、個人旅行者が年々増加してきているということがございまして、既に四国の鉄道会社6社合同で平成24年度から、外国人観光客向けの四国の広域鉄道パス、オール四国レールパスというものがございまして、こういったものの販売を開始しまして、特に台湾、香港などの東アジア地域の外国人観光客による利用が増加しているという現状がございます。

また、このレンタカー割引につきましては、訪日外国人に観光客に人気のあります北海道でありますとか、それから中部地域、九州などでも既に外国人観光客に安心、快適に観光していただくということで、NEXCOとレンタカー会社が連携して、あらかじめ設定した日数に応じまして、高速道路の乗り放題の割引商品を販売している実績がございます。

こうした取組につきましては、レンタカーを利用した訪日外国人観光客を増やすために、非常に効果的な手段であると考えておりまして、去る9月3日に本県で開催されました、中四国サミットにおきまして、意見交換テーマといたしまして、本県の飯泉知事から提案させていただいたところをごさいます、各県知事さんにも御賛同いただいて、中四国が一体となって取り組んでいくことが決定されたところをごさいます。

具体的には、今、申しましたように、北海道、中部、九州などで既に実施されているということでございまして、同じような制度を今のところ想定しているところをごさいます。一定期間、定額料金で中四国における高速道路は乗り放題になると、こういった仕組みを考えているところをごさいます、このことが実現いたしますと、特に最近個人訪日客が増えているという現状を踏まえ、非常に大きな効果を発揮できるのではないかと、いうふうにごさいます、今後、実現に向けて、一生懸命取り組んでまいりたいと思っております。よろしくお願いたします。

川端副委員長

もう一点お聞きしたのはね、どうものにするのかと。四国各県がこういうふうなことで、これからは外国人誘客について競争相手になるわけですね。徳島がレンタカーのこの制度をフル活用するにはどうしたらいいかと、そのことを聞いているわけですね。

藪下国際戦略課長

すみません。今、特に東アジア、香港、台湾等からの誘客も増えているわけですが、実際の行程を見ますと、大体4泊5日とかが多いわけでごさいます。中四国へ観光客が参られましても、1県でとどまることなく、広域の観光というのが、最近増えてきておりますもので、そういったところで本県に誘客できるようなモデルコースを提案するかどうか、それから周遊割引利用者へのプレゼントであるとか、こういったこともしつつ、それから現在の時代でごさいますので、SNSとかそういったICTを使った情報発信、こういったものに積極的に取り組んでまいりまして、PRをして、本県への誘客につなげてまいりたいと、このように考えております。

川端副委員長

旅行ですから、まずはそれを選ぼうとする旅行者のハートにぴっと、ここへ行きたいというふうな、それが入口だと思うんですね。そういうふうに旅行者に対して分かりやすく、魅力をちりばめて、それをつなぐのがレンタカーだというふうな。それもこんなふう非常に簡単に使えると。この飛行場に降りて、この飛行場から帰ることも簡単にできるというふうな、もうちょっと利用する側の気持ちに立った、外国人向けのそういうふうな情報発信、一言で言っても、なかなか難しいですよ。相手は、いろんな国がありますからね。めり張りを持って国を絞ったり、それから国民性に合ったような様々なコンテンツの組み合わせとか、そういうふうな、もう一工夫も二工夫もやらないと、せっかく中四国でレンタカーの共通制度ができていくのに、徳島には何でこなかったという、こんなふうにならないように。やっぱり徳島のは分かりやすい、徳島へ行こう、こういうふうになるように、是非この度のレンタカーの制度を活用できるような取組をしていただきたいと思います。

望して終わります。

中山委員長

ほかに質疑はございませんか。

（「なし」と言う者あり）

それでは、以上で質疑を終わります。

これをもって、広域交流対策特別委員会を閉会いたします。（12時11分）